

## 離れた太陽経度での In-Situ 太陽風モニタリング

### IN-SITU SOLAR WIND MONITORING AT A SEPARATE SOLAR LONGITUDE

# 三宅 互[1]; 斎藤 義文[2]; 早川 基[3]; 松岡 彩子[4]

# Wataru Miyake[1]; Yoshifumi Saito[2]; Hajime Hayakawa[3]; Ayako Matsuoka[4]

[1] 通総研; [2] 宇宙研; [3] 宇宙研・宇宙機構; [4] 宇宙研

[1] CRL; [2] ISAS; [3] ISAS/JAXA; [4] JAXA/ISAS

LWS 計画の中には、惑星間空間に複数の太陽風観測点を配置する Solar Sentinels の構想がある。また、通総研では太陽の東側  $60^\circ$  の L5 点に定常的な宇宙天気観測衛星を置く L5 ミッションの計画がある。さらに、米国の STEREO 計画では、CME の立体的な撮像が目玉ではあるが、これらの計画に先立ち、惑星間空間の経度が離れた地点での In-Situ の多点観測も行われる。これらの観測では、科学的な研究成果はもちろんのこと、宇宙天気予報への応用も期待される。具体的な利用としては、共回転高速太陽風の先行監視のほか、CME 前面のシース領域特性の推測、さらに太陽プロトン現象の早期警報などの可能性があげられる。本研究では、NOZOMI の惑星間空間での In-Situ 太陽風観測データを交えて、これら離れた太陽経度における In-Situ 太陽風モニタリングデータの宇宙天気予報への応用についての検討を紹介する。